

2017年6月19日掲載

三種の神器

より高度な診療 可能に

戦後1950年代後半には白黒テレビ、冷蔵庫、洗濯機が、60年代半ばには、カラーテレビ、クーラー、自家用車が「三種の神器」と言われました。歯科にも「三種の神器」といわれているものがあることをご存知でしょうか。

歯科の分野で注目を集めているのは①歯科用CAD/CAMシステム②歯科用マイクロスコープ③歯科用CTの3つです。いずれも高価ではありますが、より高度な診療が可能になります。

「歯科用CAD/CAM」は、口腔^{こうくう}の修復物をコンピューターにより設計、製造を行う機器です。

一部保険診療にも導入されていますが、口の中で直接スキャニング（読み取り）するものは自費診療に該当し、保険では従来通り型をとって作製します。

「歯科用マイクロスコープ」は、医科の手術で使われていた手術用顕微鏡を歯科用にしたものです。肉眼やルーペを使用しても見えない小さなむし歯や、複雑な歯の根の中を見ることができます。

「歯科用CT」は、断層画像を得ることができる装置です。今までは2次元で見ていたレントゲン画像を、3次元で立体的に見ることができます。

これらの医療機器の普及率はまだ低いですが、より高度で正確な治療が期待できるものです